6．舞鶴市とのMALUI連携協力事業

東　昇

1．概要

京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室では、2022年度から京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり」（研究代表：東昇）の事業を展開してきた。この取り組みでは、京都府北部の文化資源データの作成と、MALUI連携による情報連携プラットフォームの開発をおこなっている。MALUI連携とは、M（博物館）、A（文書館）、L（図書館）、U（大学）、I（企業）の頭文字を取ったもので、これまで個々で存在していた各機関の連携を促進し、情報を集約・共有することを通じて、文化資源を活用した地域づくりに新たな循環を生み出すことを目的としている。

2023年度には、舞鶴市とMALUI連携協力に関する覚書を締結するとともに、新修舞鶴市史編さん事業が開始された。この事業は、舞鶴市との連携協定のもと、文学部歴史学科が協力し、歴史学科の教員、院生、学生が参加して各種調査を進めている。

調査参加者　東昇（教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、小島慧音、渡部凌空（以上４回生）、岩間智哉、山蔭晴人（以上３回生）、上武恒介、田又春哉、若山阿美（以上２回生）

2．内容

2024年度は、文化情報学研究室を中心に文書調査を実施し、近世文書の調査や資料目録の作成を進めた。舞鶴市郷土資料館では、田辺藩領内の大庄屋であった安久家文書他の撮影を実施するとともに、大庄屋木船家文書の目録チェックをおこない、解題、文書目録、翻刻、資料紹介・コラムを含めた資料目録の原稿を作成した。

また、11月９日には舞鶴市西公民館で開催された舞鶴市主催の第１回地域史講話において、東昇（舞鶴市市史編さん委員長）が「身近なことから舞鶴の歴史を考える―江戸時代の狐狩・いさざ・看病―」と題し、舞鶴における調査成果をもとに、地域の生活や行事に関するテーマについて講演をおこなった。

さらに、WEBサイト「まるまる舞鶴」では、X（旧Twitter）に投稿した「まるまる舞鶴　今日は何の日」の内容を月別に整理し、検索可能なコラムとして掲載した。文化資源データの活用と情報連携プラットフォームに関しては、生成AIのChatGPTを利用し、舞鶴市史を基礎としたChatbotの企画開発をNXワンビシアーカイブズと共同で進め、試作版を関係者間で検討した。

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。（い）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第11号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522　京都市左京区下鴨半木町1-5
発　行　日　2025年3月31日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒606-8540　京都市左京区下鴨高木町38-2